

# タービン建屋東側における 地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について

2017年3月30日

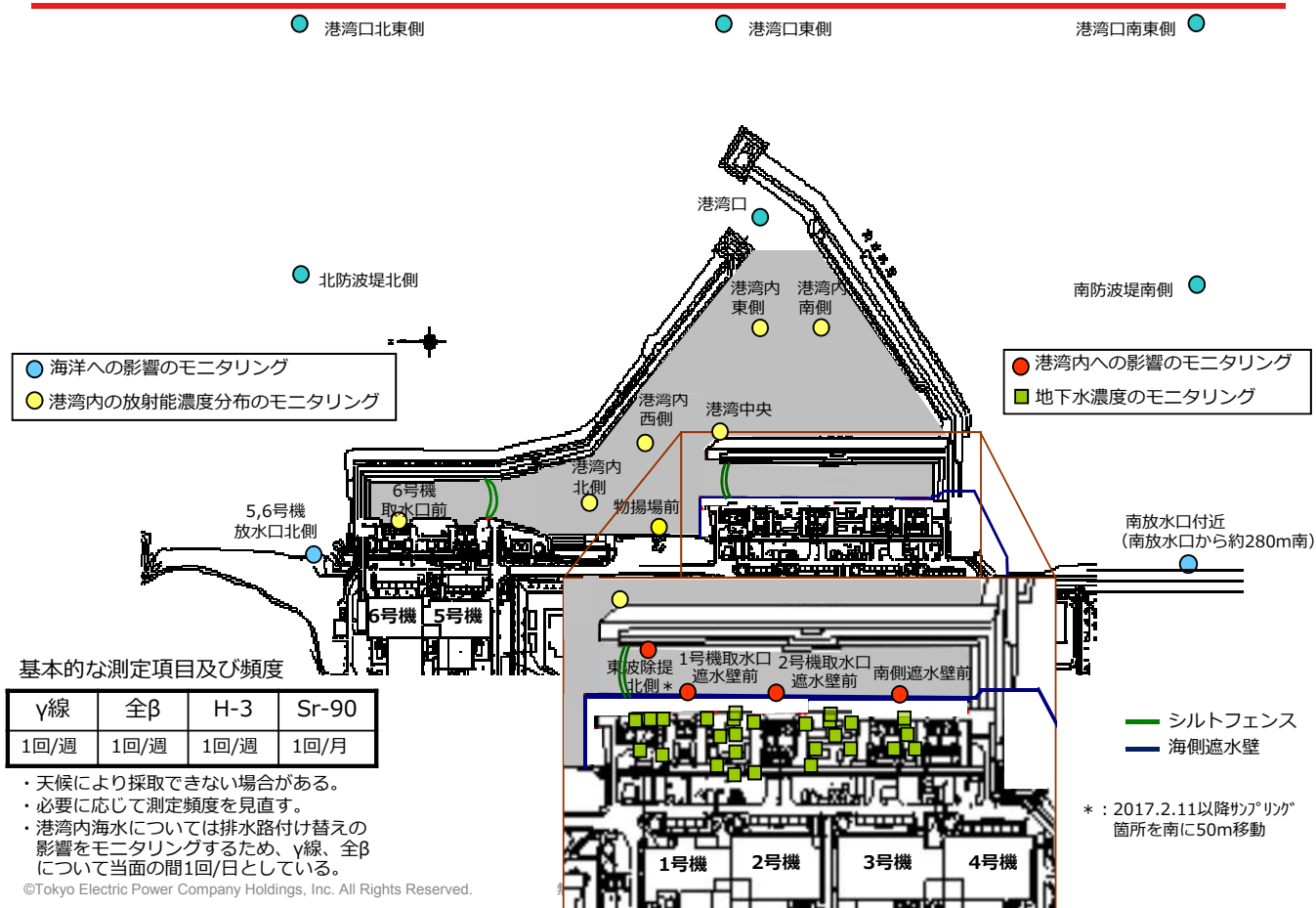


## 東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

### モニタリング計画（サンプリング箇所）



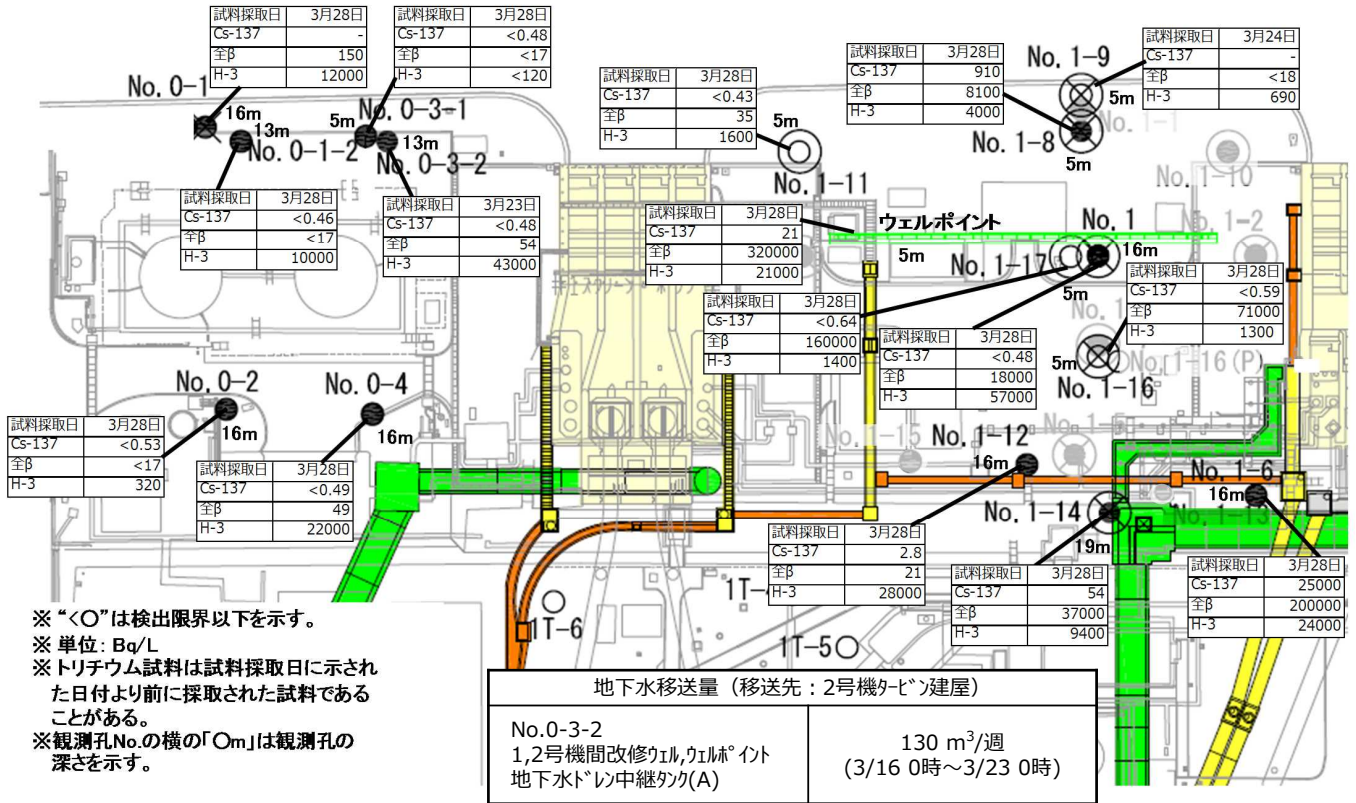
#### 基本的な測定項目及び頻度

γ線	全β	H-3	Sr-90
1回/週	1回/週	1回/週	1回/月

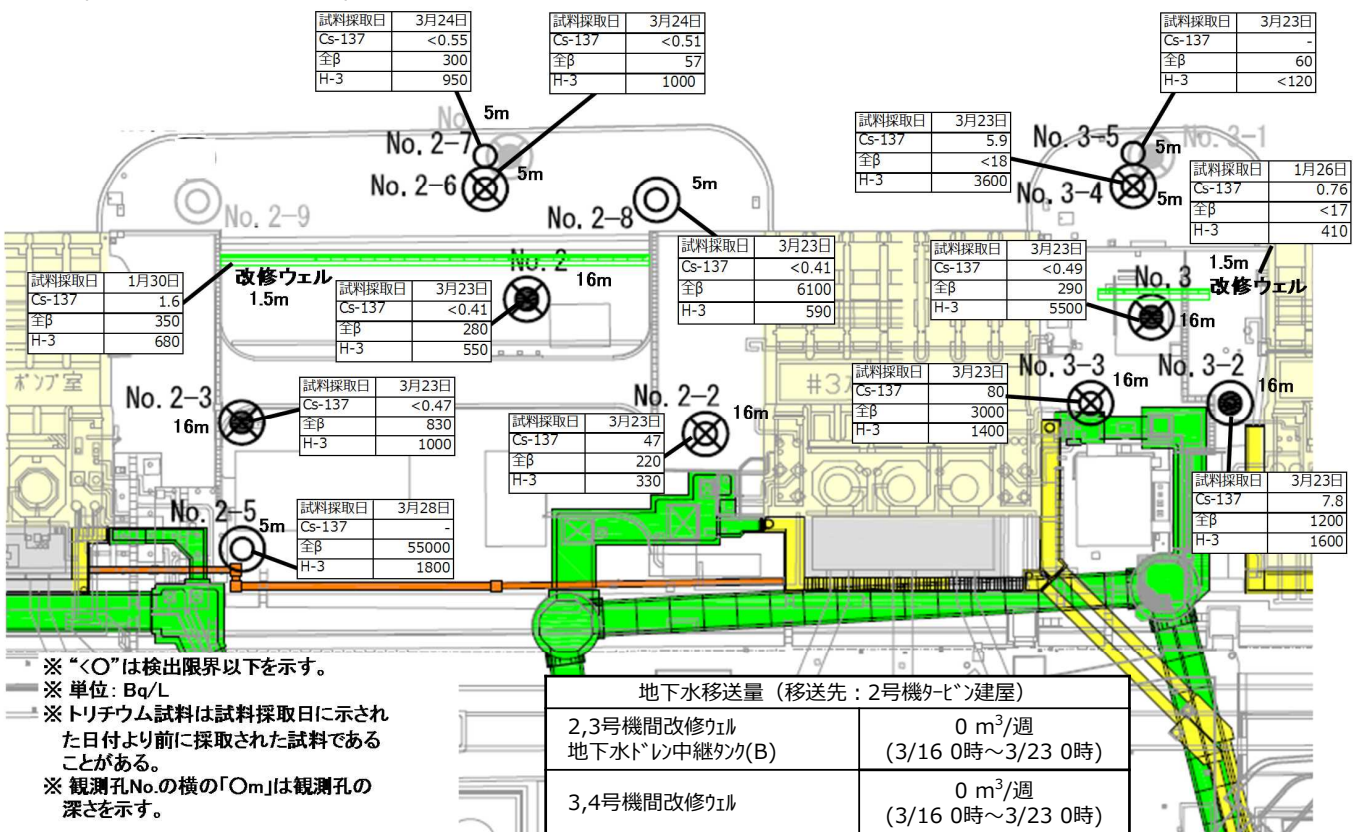
- ・ 天候により採取できない場合がある。
- ・ 必要に応じて測定頻度を見直す。
- ・ 港湾内海水については排水路付け替えの影響をモニタリングするため、γ線、全βについて当面の間1回/日としている。

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

<1号機北側、1,2号機取水口間>



<2,3号機取水口間、3,4号機取水口間>



## &lt;1号機北側エリア&gt;

- No.0-1でH-3濃度について2016.10より緩やかな上昇傾向にあり、現在13,000Bq/ℓ程度で横ばい傾向にある。

## &lt;1,2号機取水口間エリア&gt;

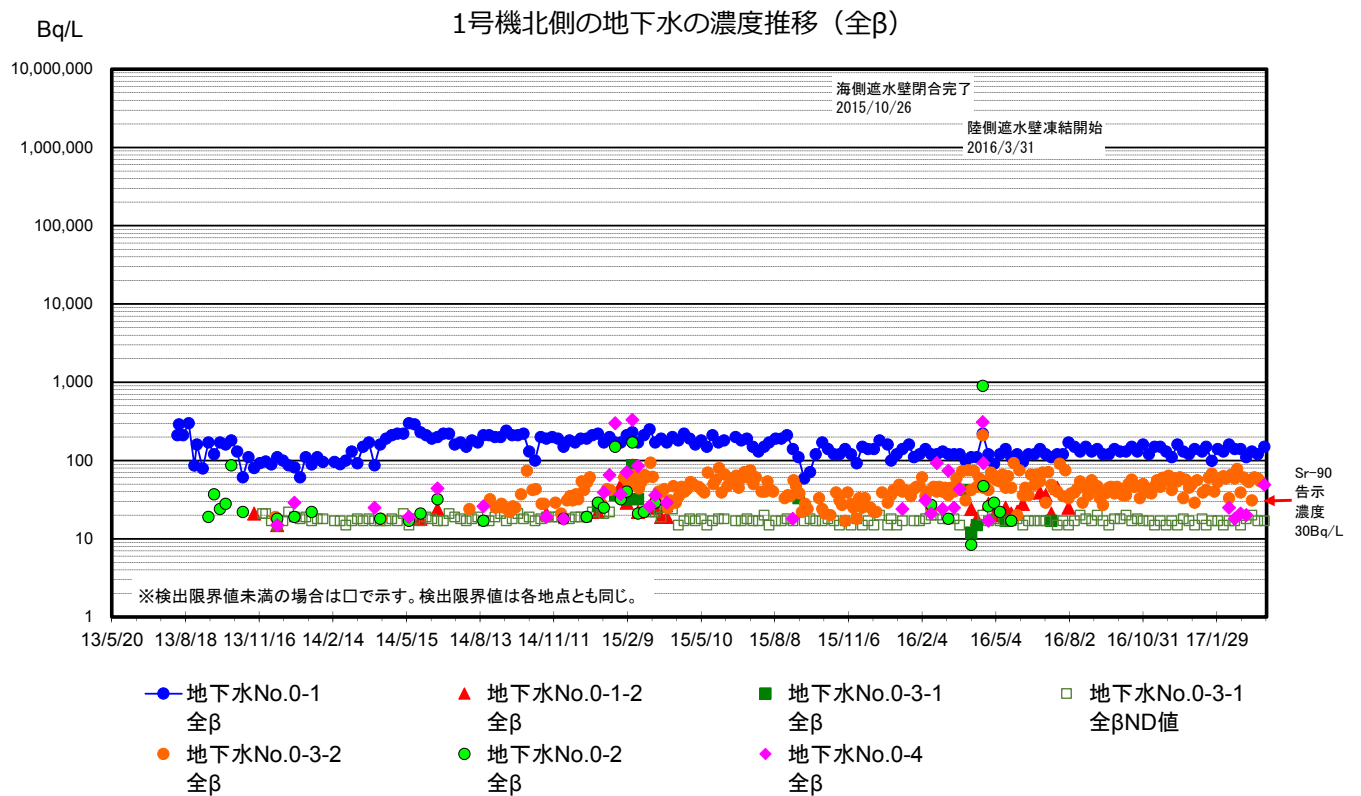
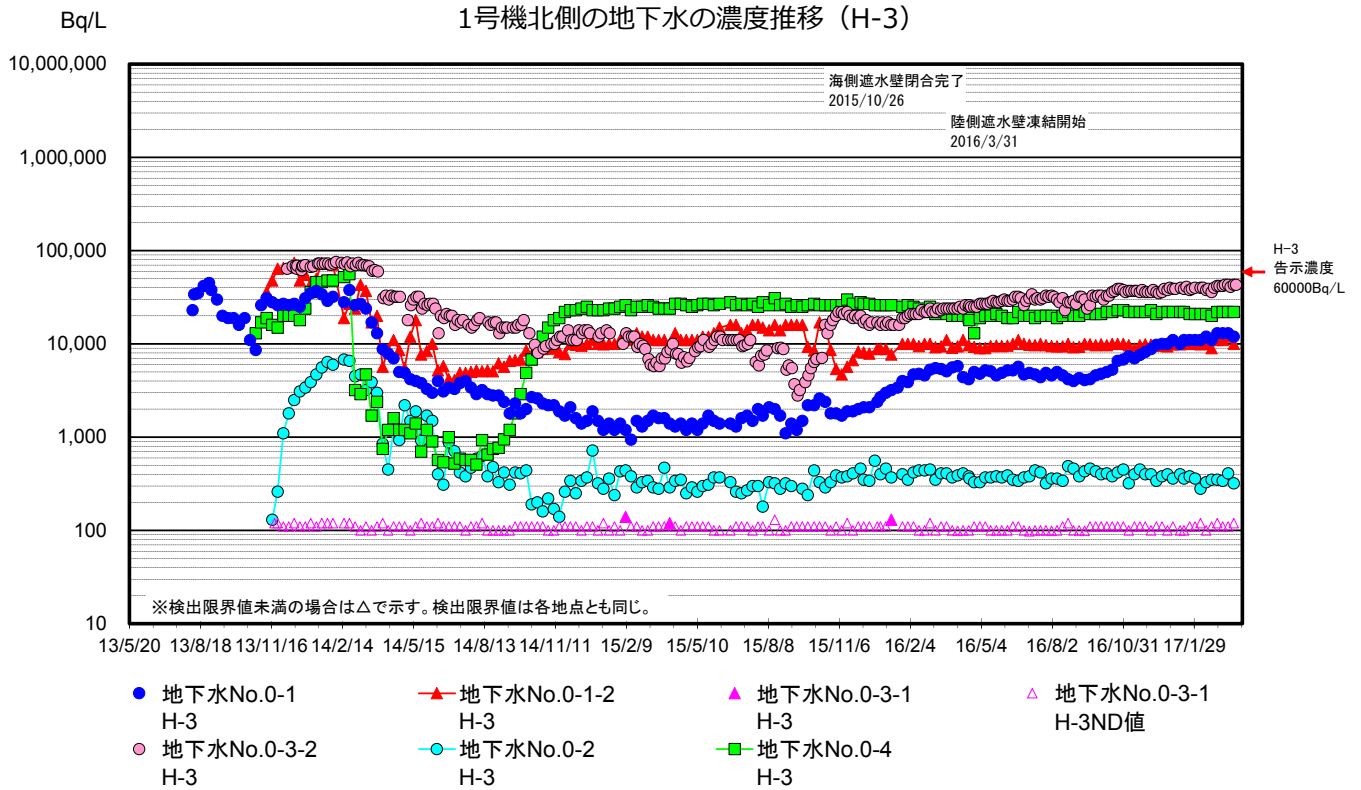
- No.1-6で全β濃度について2016.7より低下が見られていたが、2016.10中旬より横ばい傾向にあり20万Bq/ℓ程度で推移している。H-3濃度について2016.11より6,000Bq/ℓ程度から60,000Bq/ℓ程度まで上昇したが、現在20,000Bq/ℓ程度となっている。
- No.1-8でH-3濃度について2016.11より2,000Bq/ℓ程度から上昇し、現在4,000Bq/ℓ程度となっている。
- No.1-9でH-3濃度について2016.12より200Bq/ℓ程度から1,000Bq/ℓ程度まで上昇したが、現在700Bq/ℓ程度となっている。
- No.1-16で全β濃度について2016.8以降6,000Bq/ℓまで低下した後に10万Bq/ℓ程度まで上昇していたが、2016.10中旬から低下傾向にあり、現在60,000Bq/ℓ程度となっている。
- No.1-17でH-3濃度について2016.3以降40,000Bq/ℓから低下、上昇を繰り返し、2016.11中旬から低下傾向にあったが、現在は低下前より若干高い1,400Bq/ℓ程度となっている。

## &lt;2,3号機取水口間エリア&gt;

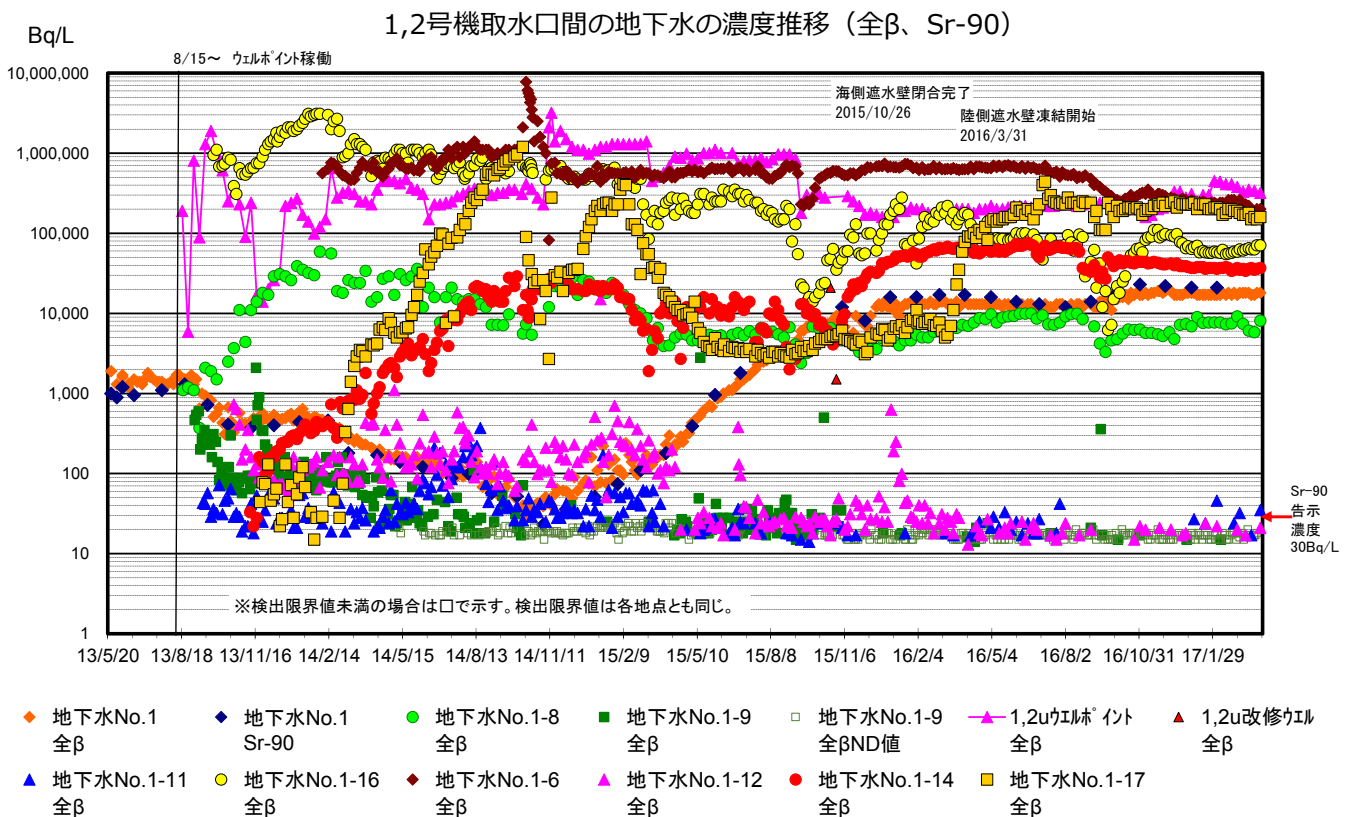
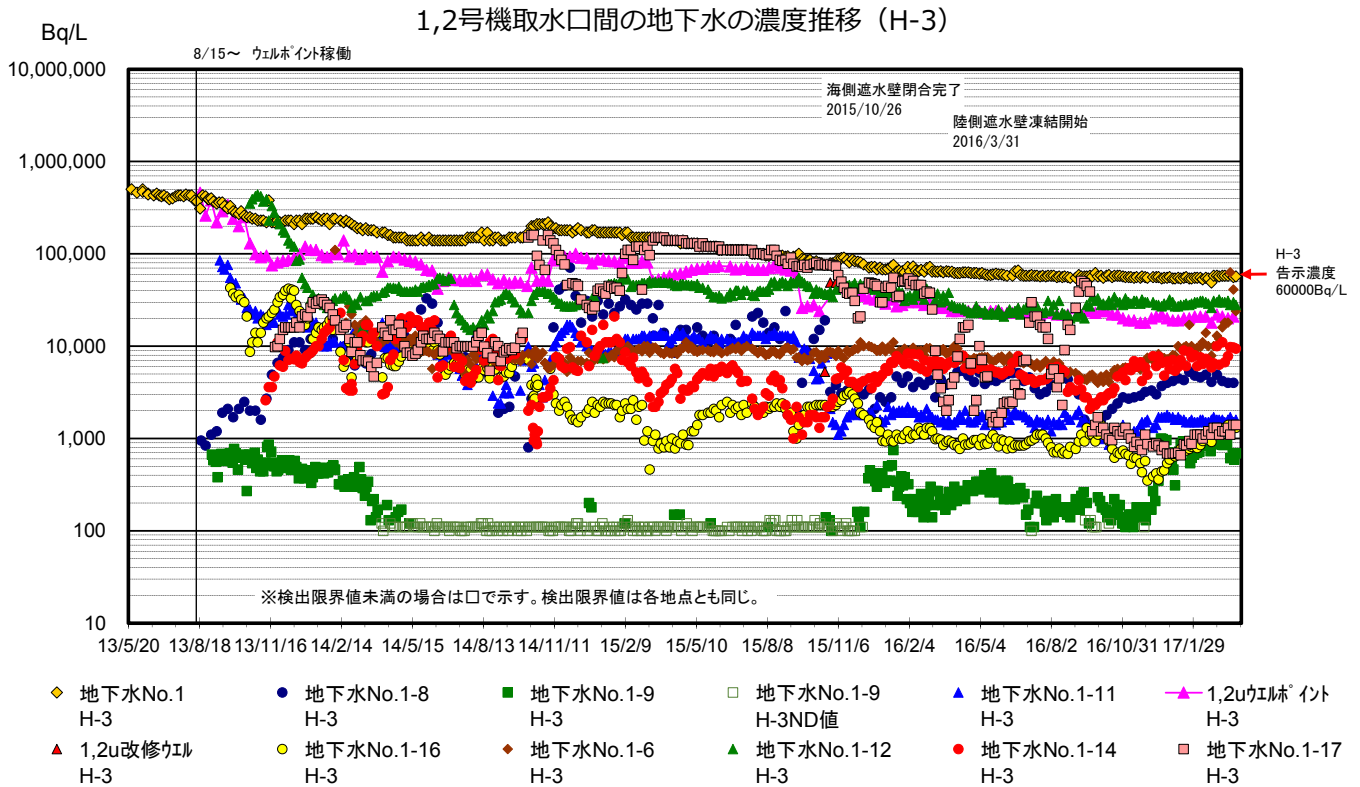
- No.2-3でH-3濃度について4,000Bq/ℓ程度で推移し2016.11より低下していたが、現在横ばい傾向にあり、1,000Bq/ℓ程度で推移している。
- No.2-5で全β濃度は2015.11以降50万Bq/ℓ程度まで上昇した後、2016.1以降から低下し、2016.10中旬より上昇傾向にあったが、現在60,000Bq/ℓ程度で横ばい傾向にある。H-3濃度について500Bq/ℓ程度で推移していたが、2016.11以降から上昇傾向にあり、現在1,800Bq/ℓ程度となっている。

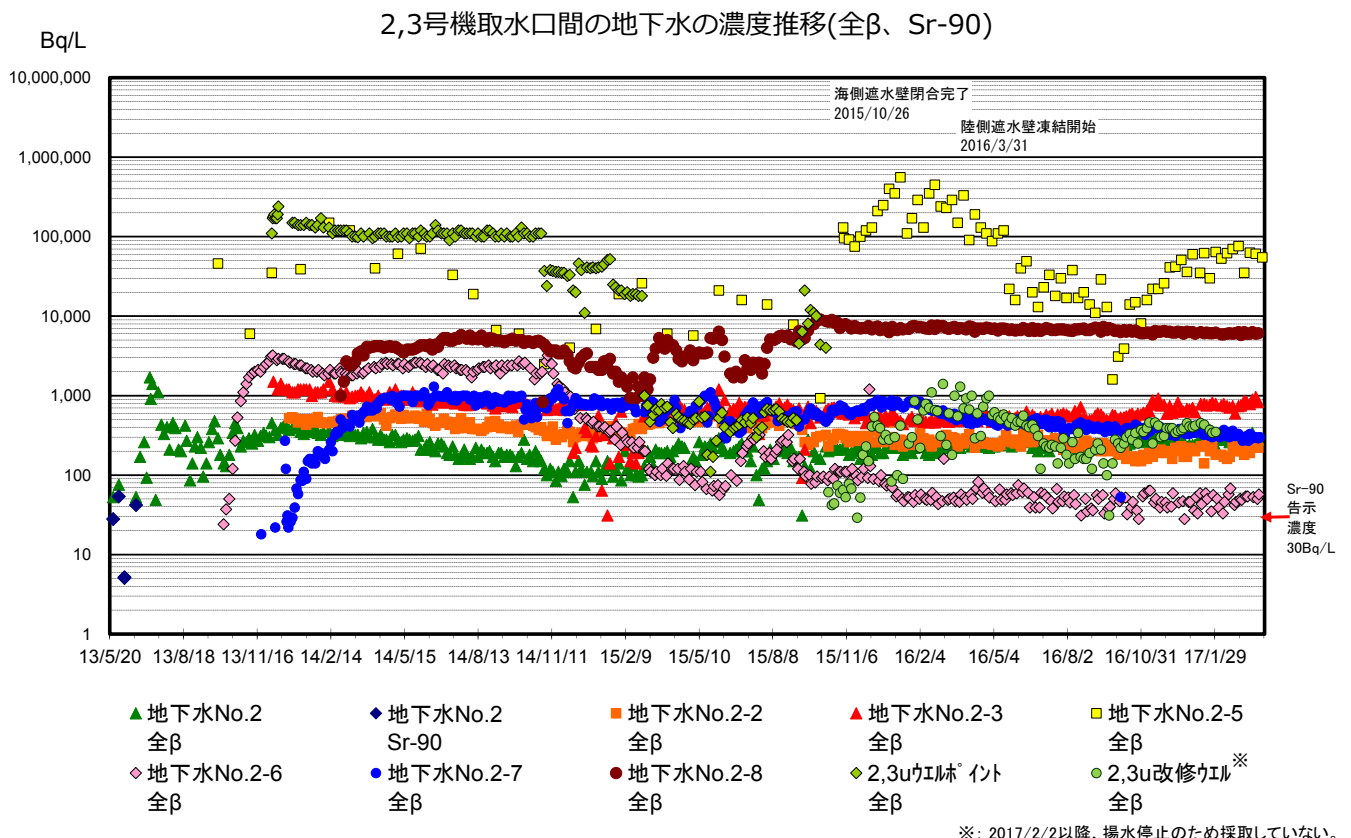
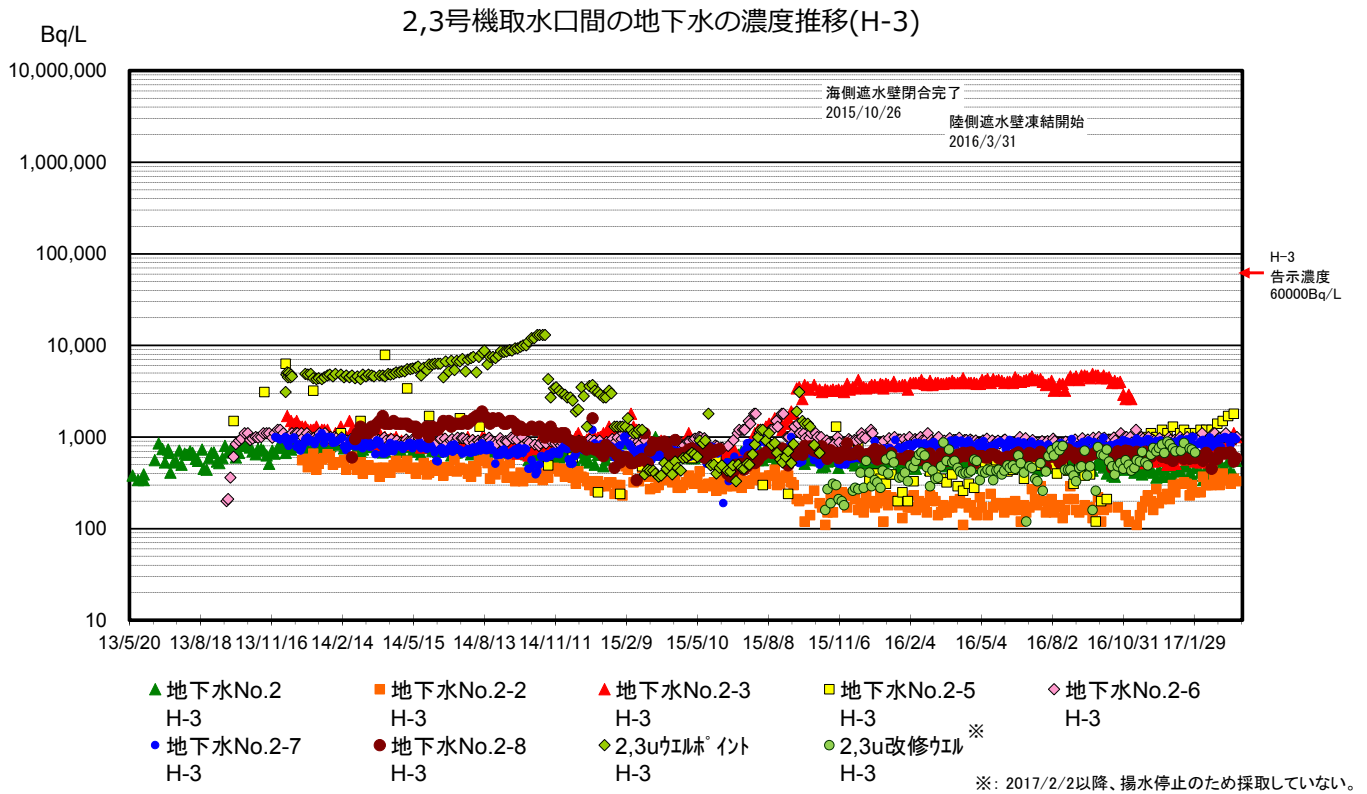
## &lt;3,4号機取水口間エリア&gt;

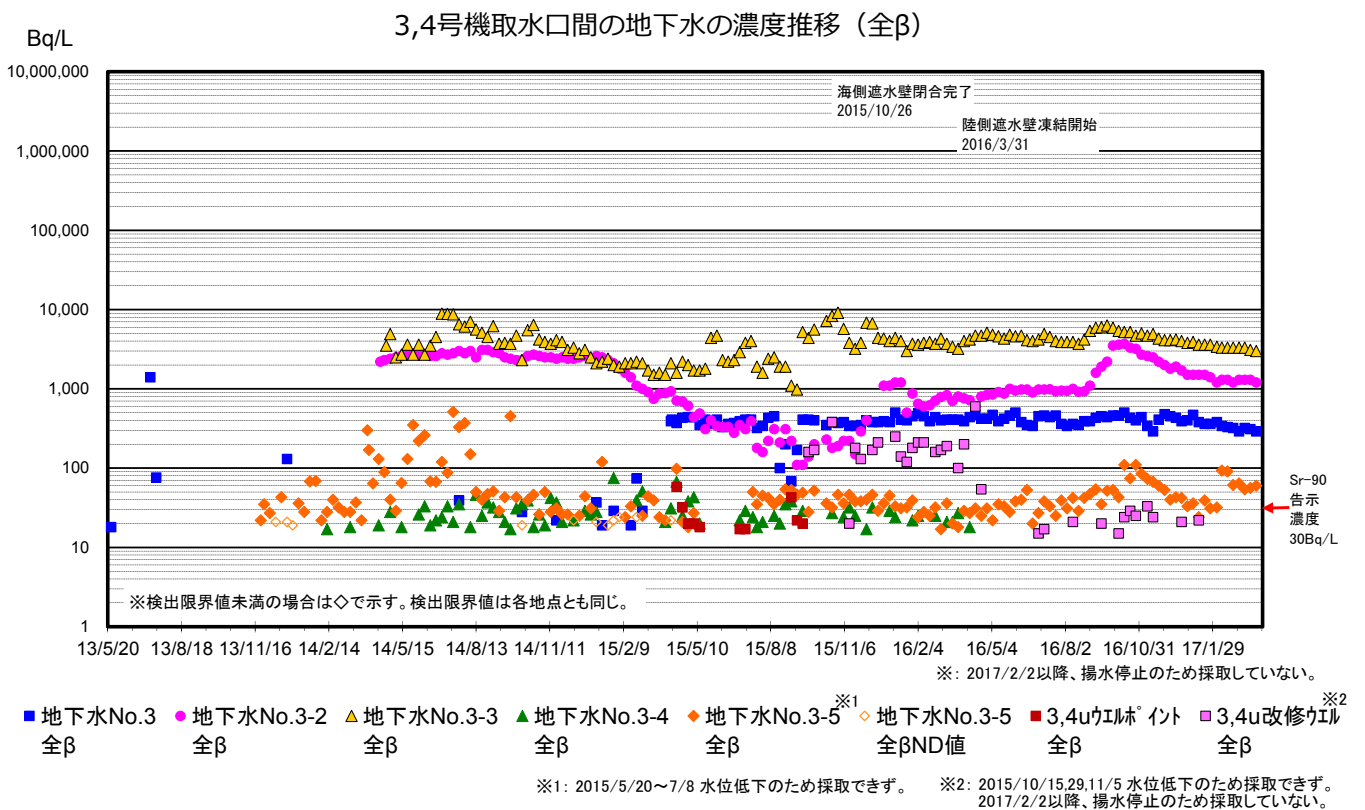
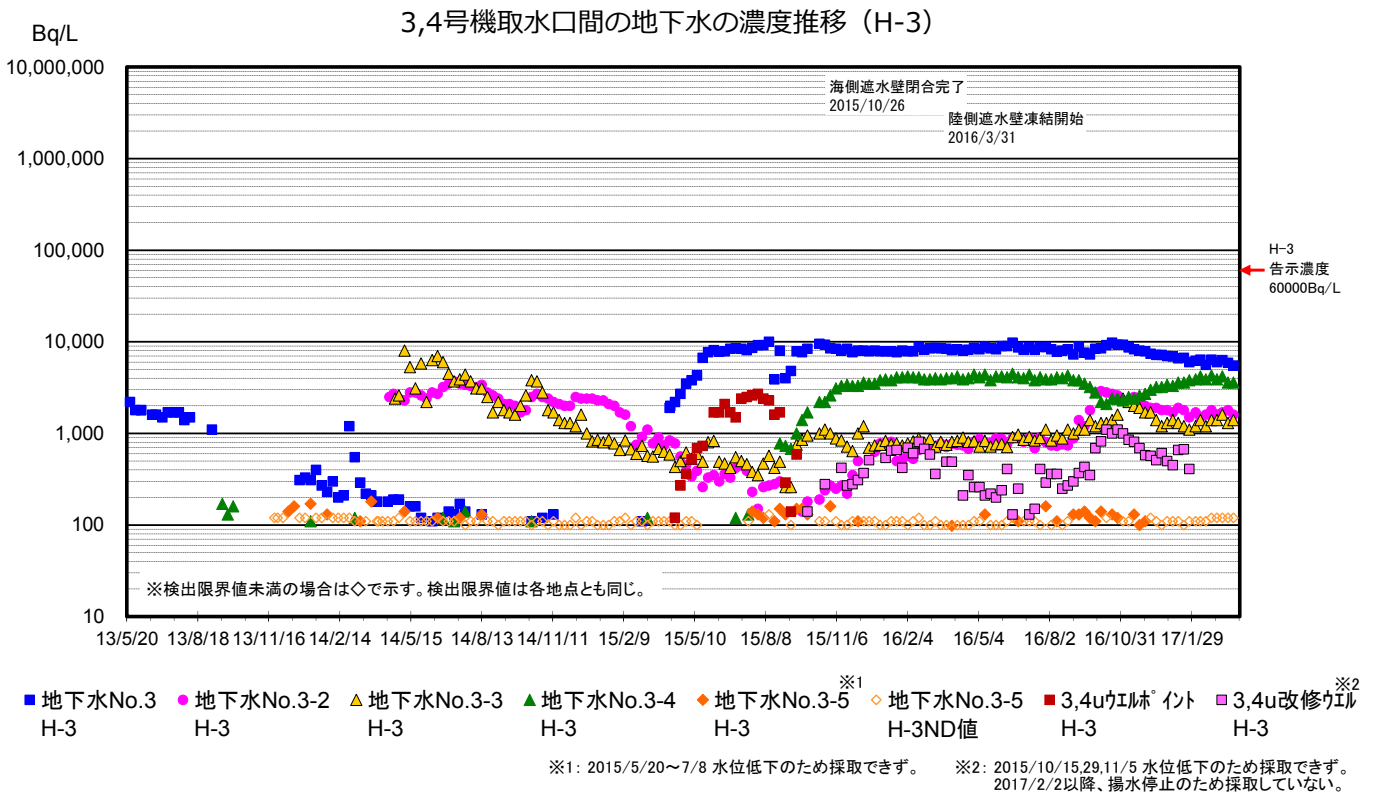
- No.3-2でH-3濃度と全β濃度が2016.9より上昇が見られていたが、10月末のH-3濃度3,000Bq/ℓ、全β濃度3,500Bq/ℓをピークに緩やかな低下傾向にあり、現在はそれぞれが上昇前より若干高い1,500Bq/ℓ程度となっている。
- No.3-3でH-3濃度について2016.9より上昇が見られていたが、11月始めの2,500Bq/ℓをピークに穏やかな低下傾向にあり、現在は上昇前より若干高い1,500Bq/ℓ程度となっている。
- No.3-4でH-3濃度について2016.9より低下が見られていたが、10月末の2,500Bq/ℓから緩やかな上昇傾向にあり、現在は低下前と同程度の4,000Bq/ℓ程度となっている。
- No.3-5で全β濃度について2016.10より低下傾向にあり30Bq/ℓ程度まで低下し、2017.2より90Bq/ℓ程度まで上昇していたが、現在60Bq/ℓ程度となっている。



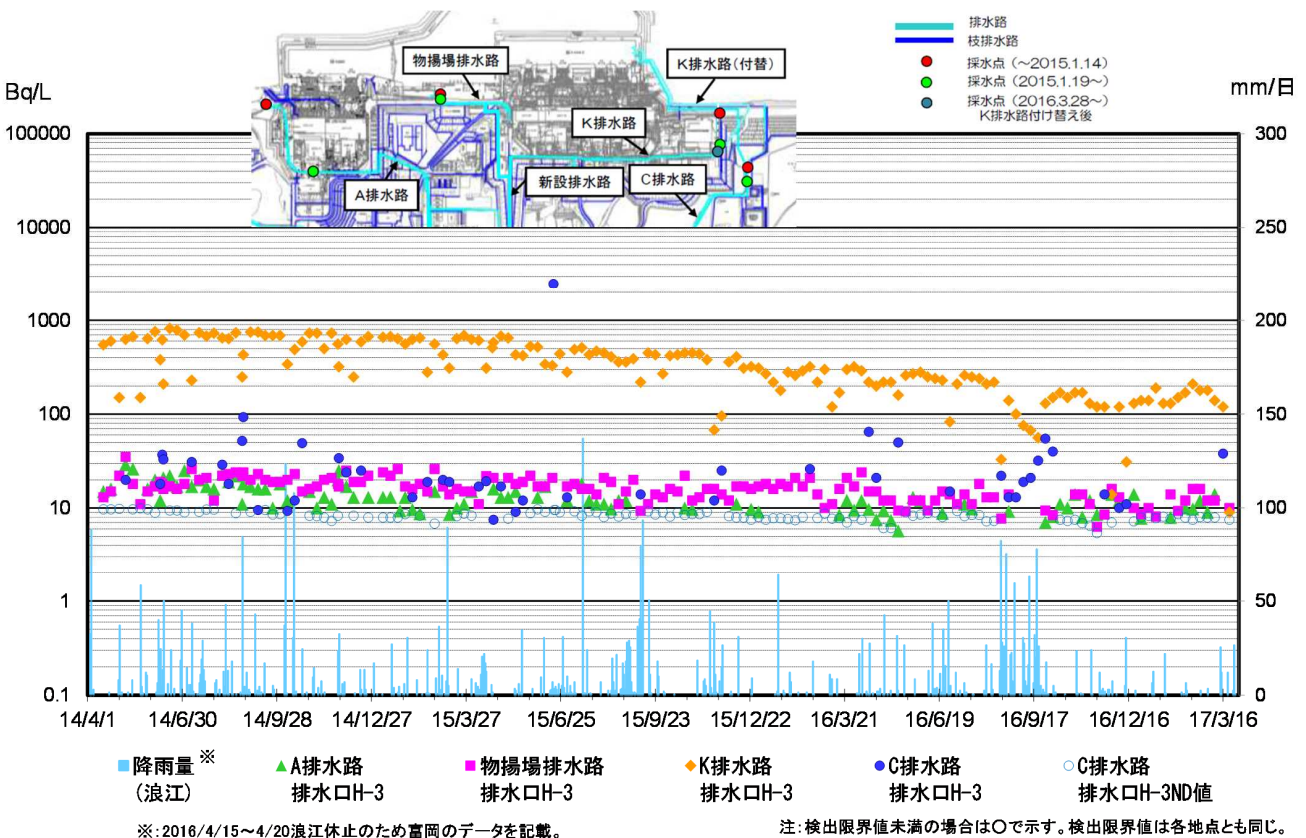
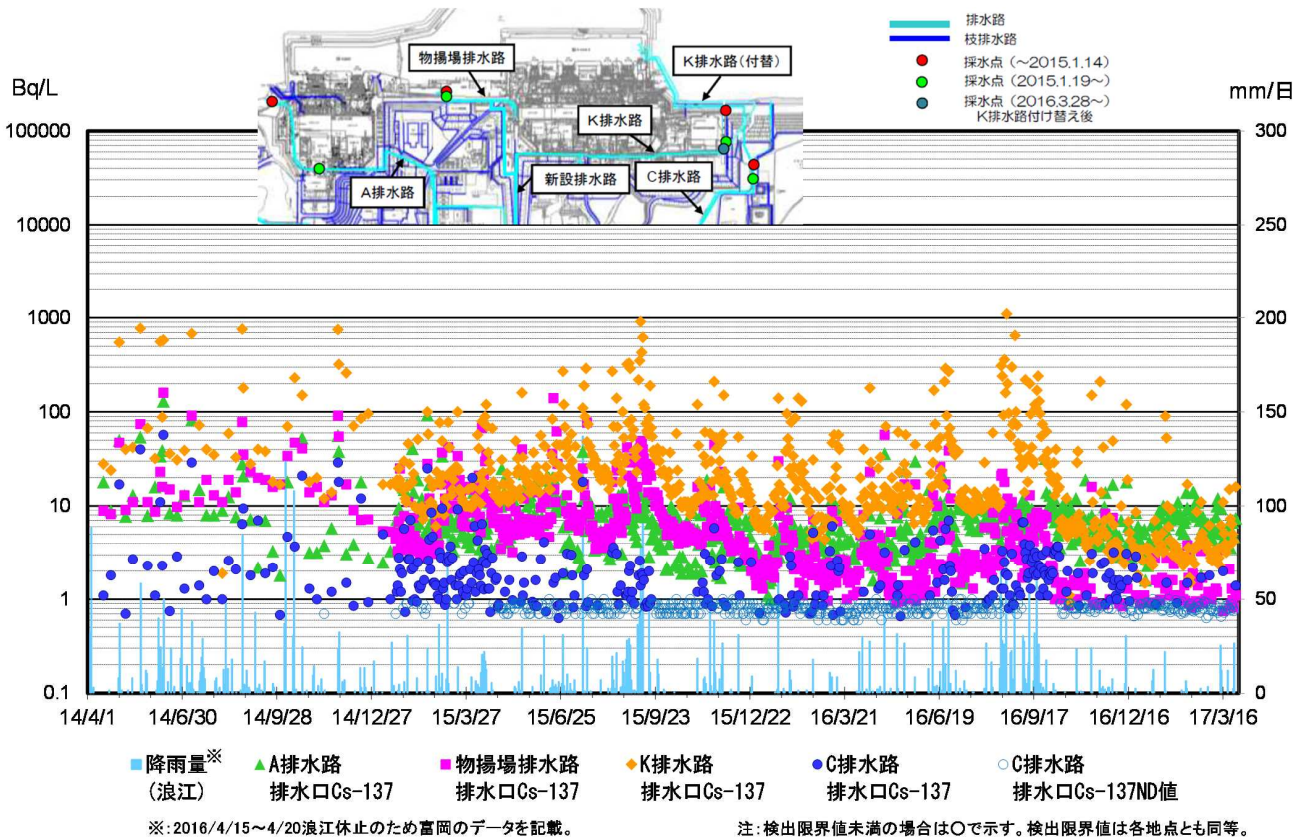




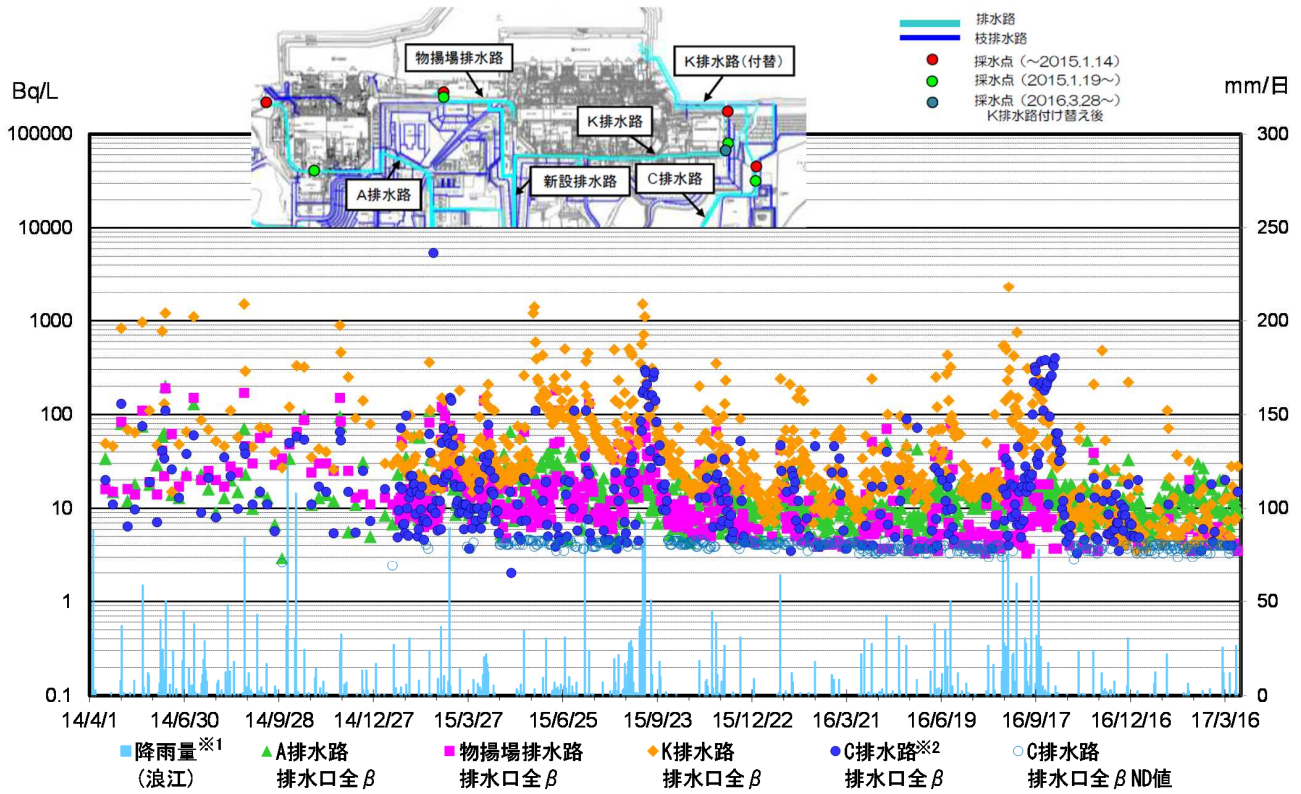






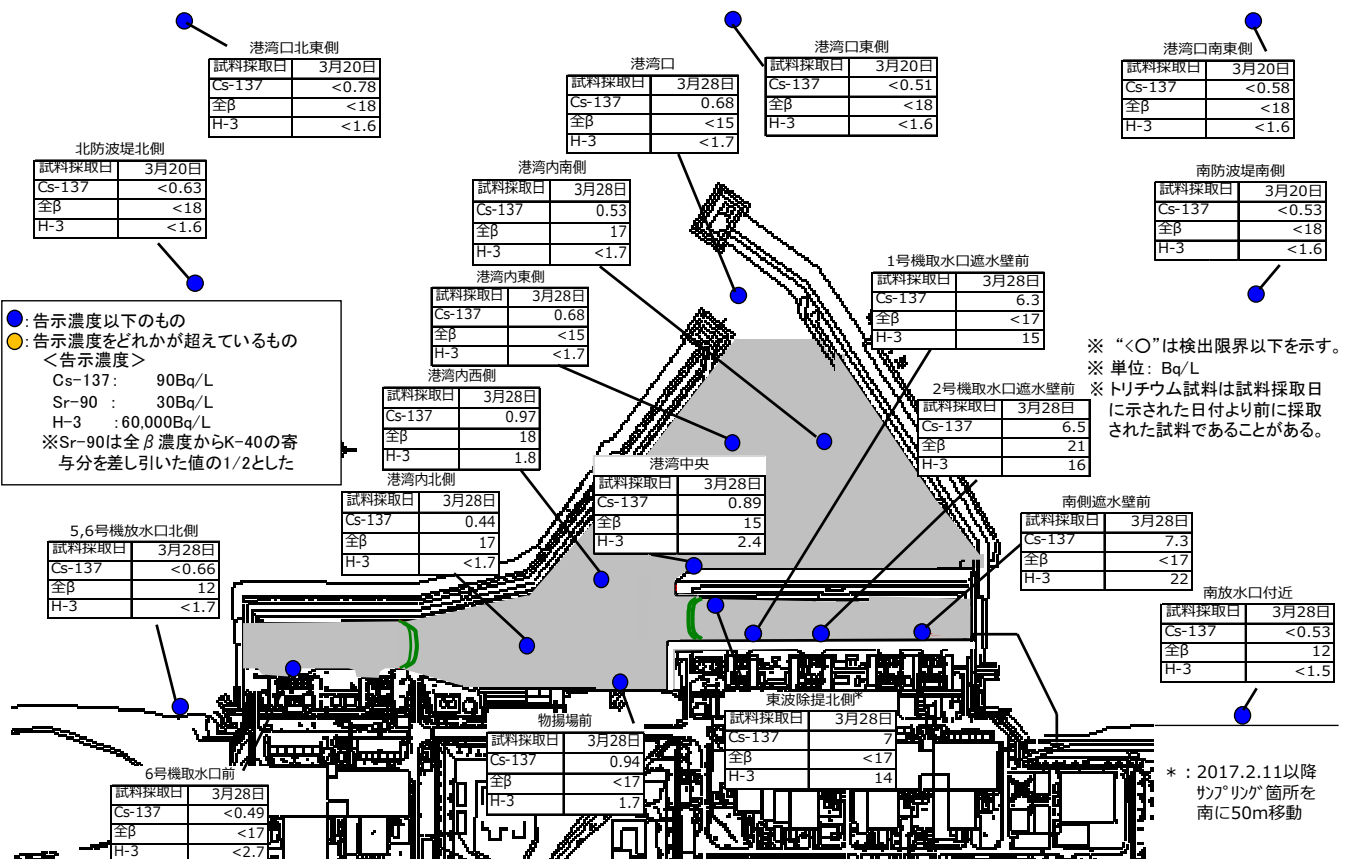






※1: 2016/4/15~4/20浪江休止のため富岡 注: 検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同じ。 ※2: C排水路について2016/9/14~10/11は採水点の溜水を採水することにより高めの数値となることがあった。(新設排水路への切替の影響)

港湾内外の海水濃度



< 1～4号機取水路開渠内エリア >

- 低い濃度で推移しているが、大雨時にCs-137濃度、全β濃度の上昇が見られる。
- 海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度の低下が見られる。
- シルトフェンスの位置変更のための新シルトフェンスの設置以降、Cs-137濃度の上昇が見られる。

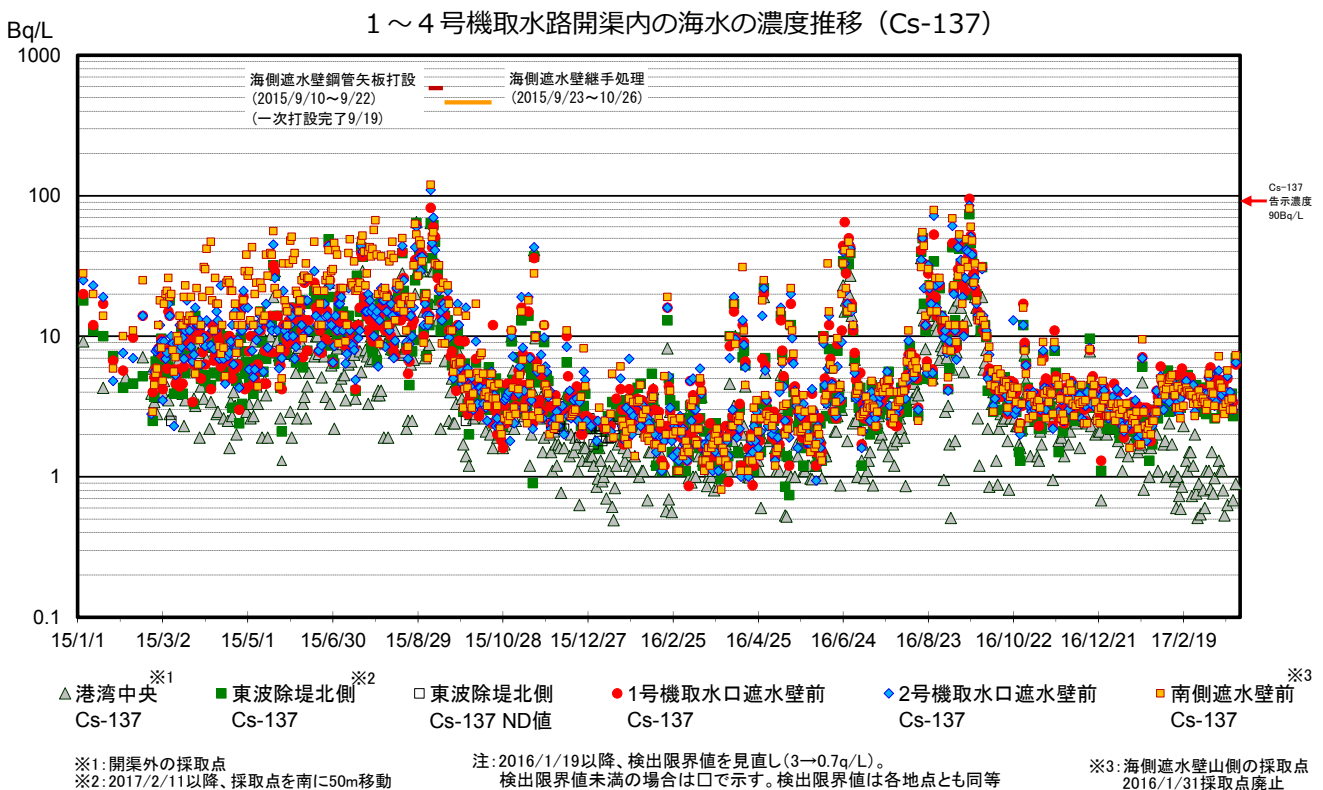
< 港湾内エリア >

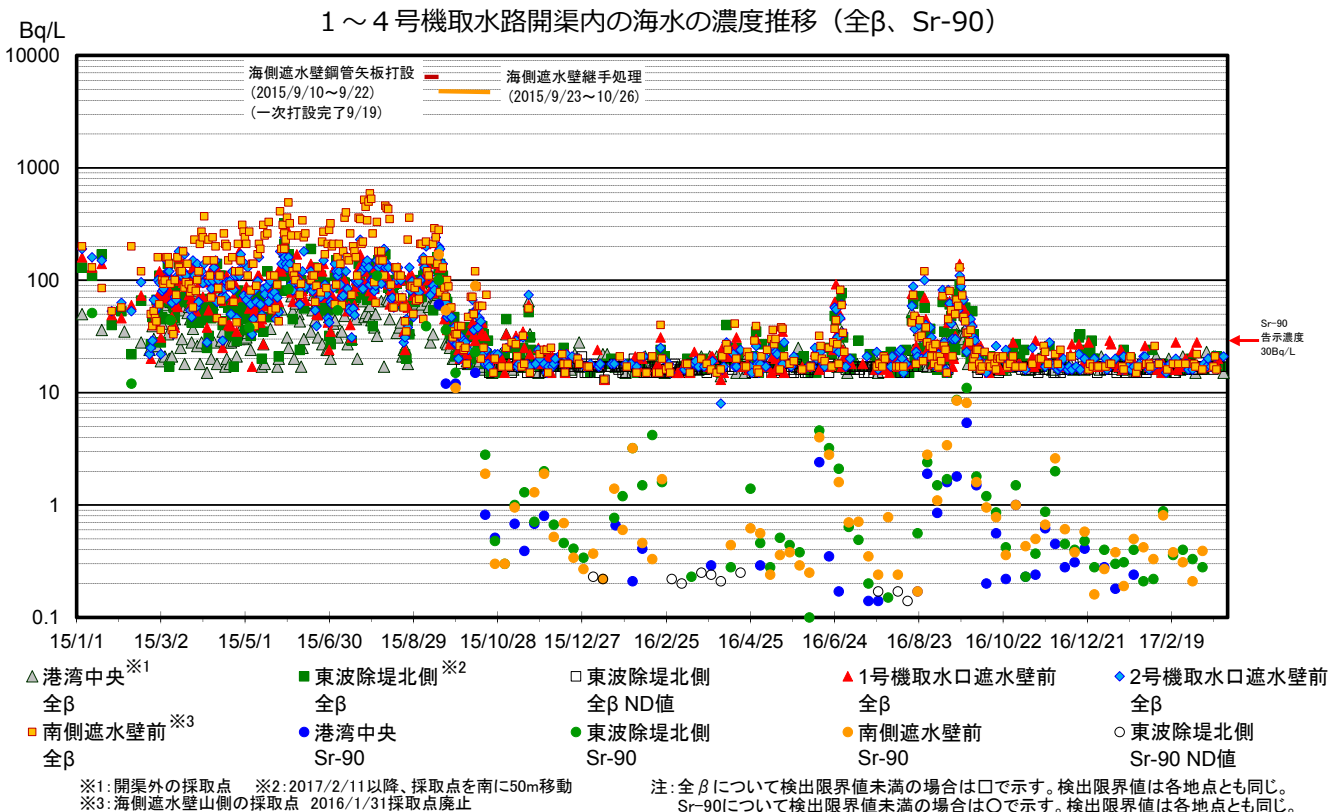
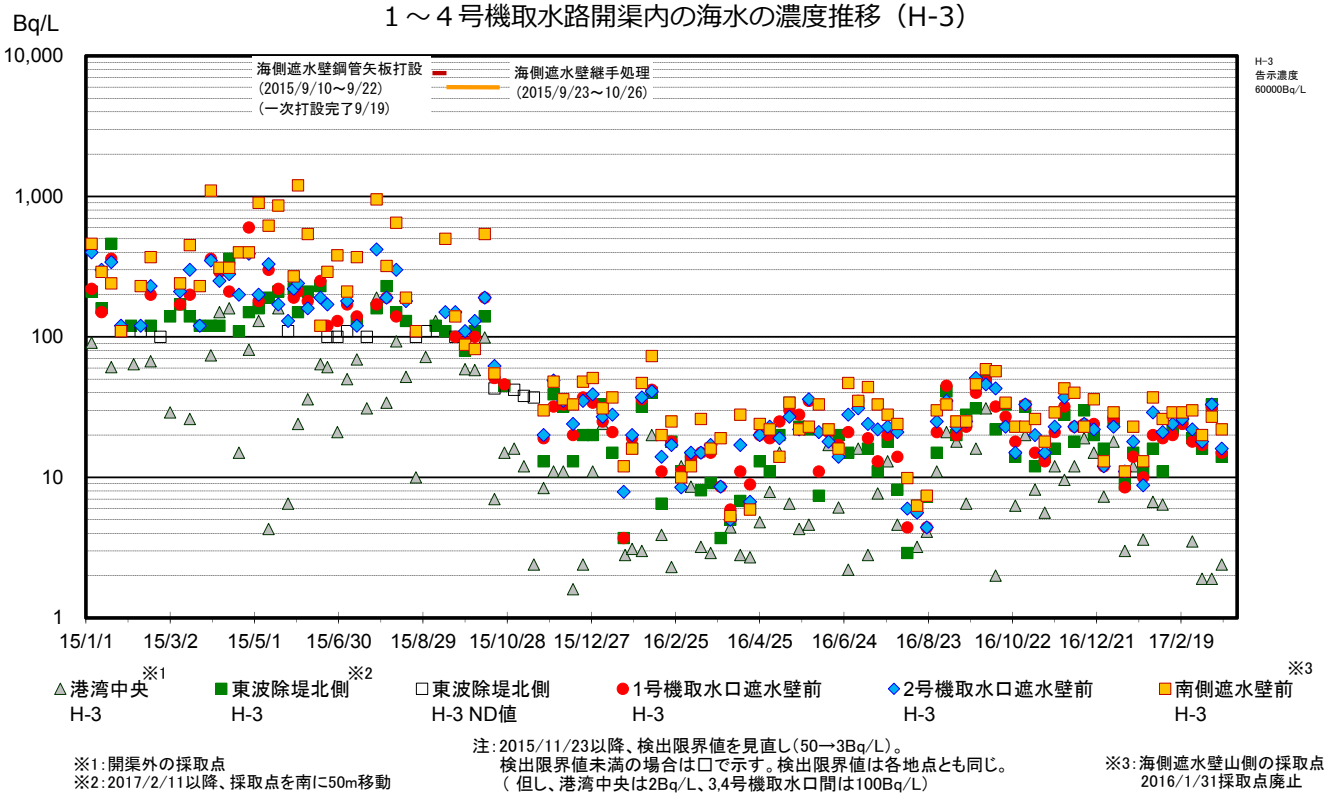
- 低い濃度で推移しているが、大雨時にCs-137濃度の上昇が見られる。
- 海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度の低下が見られる。

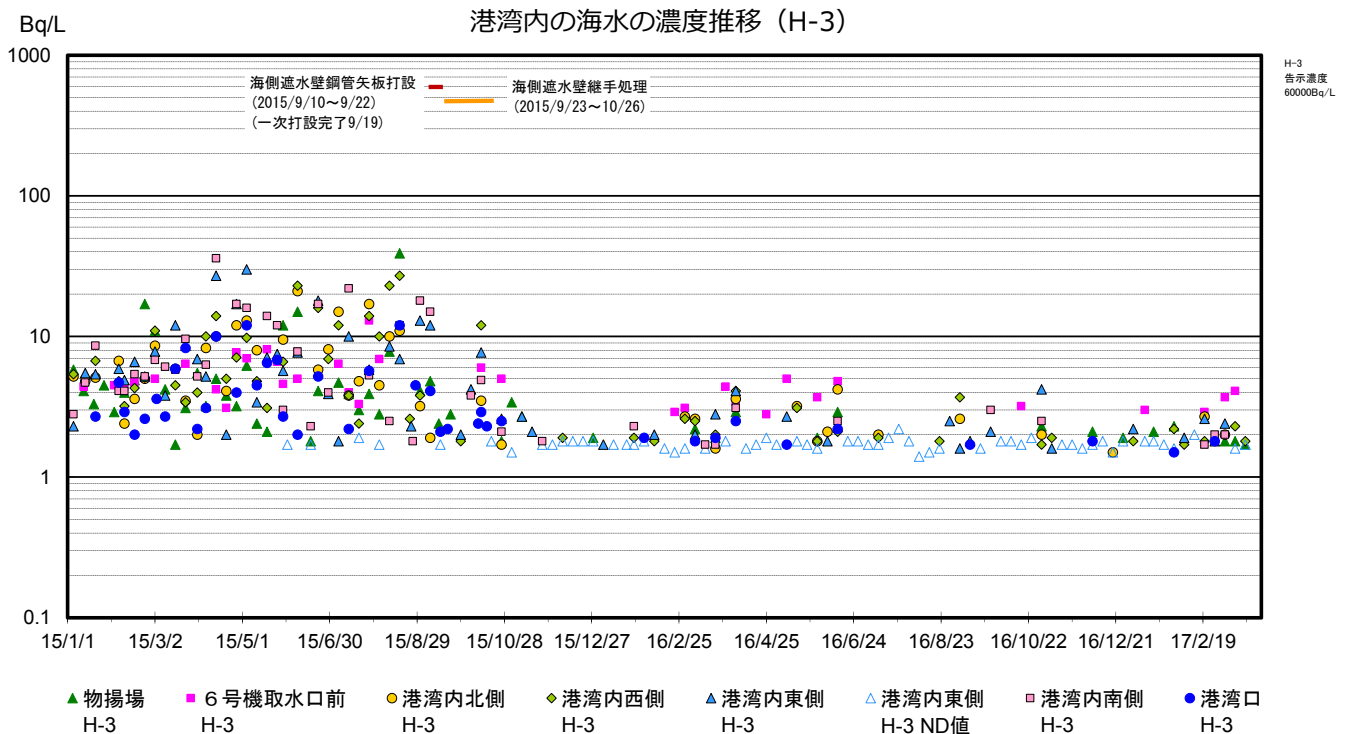
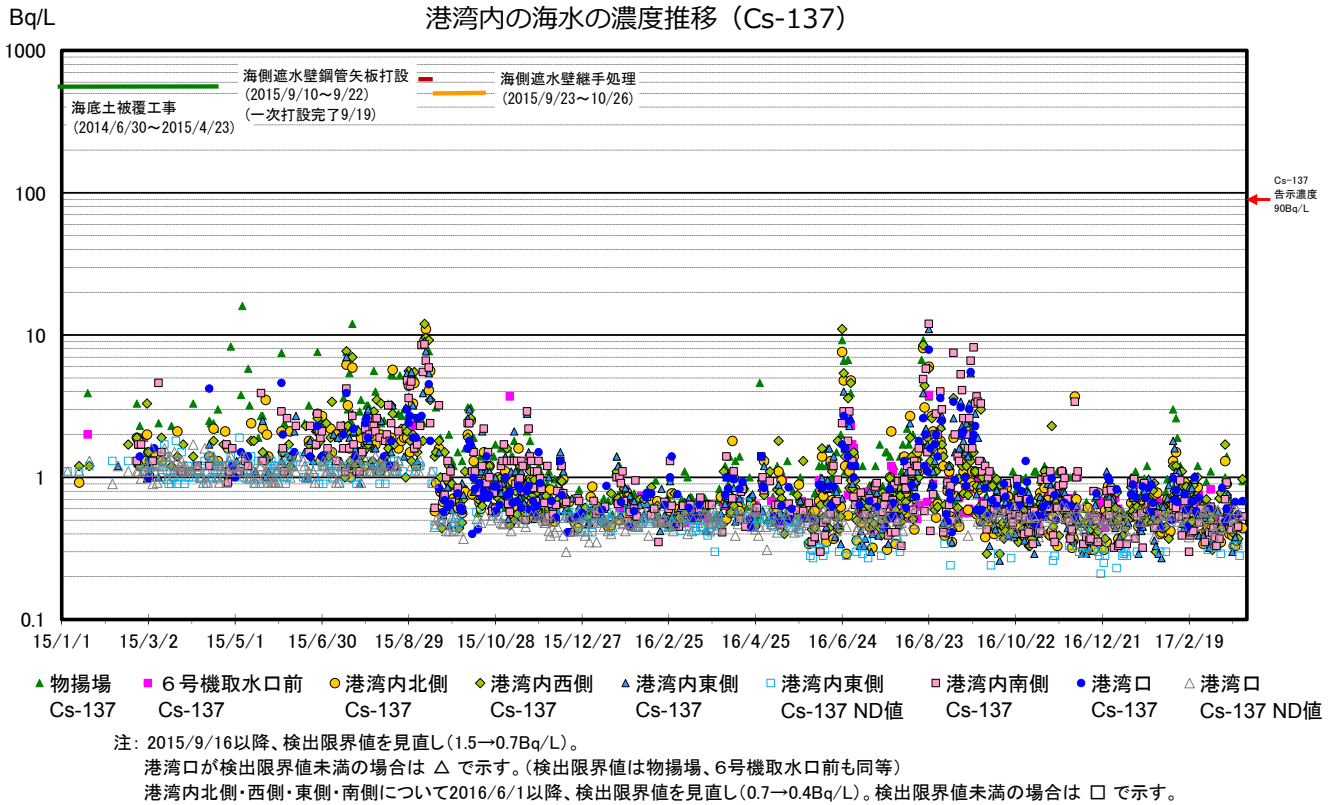
< 港湾外エリア >

- これまでの変動の範囲で推移している。

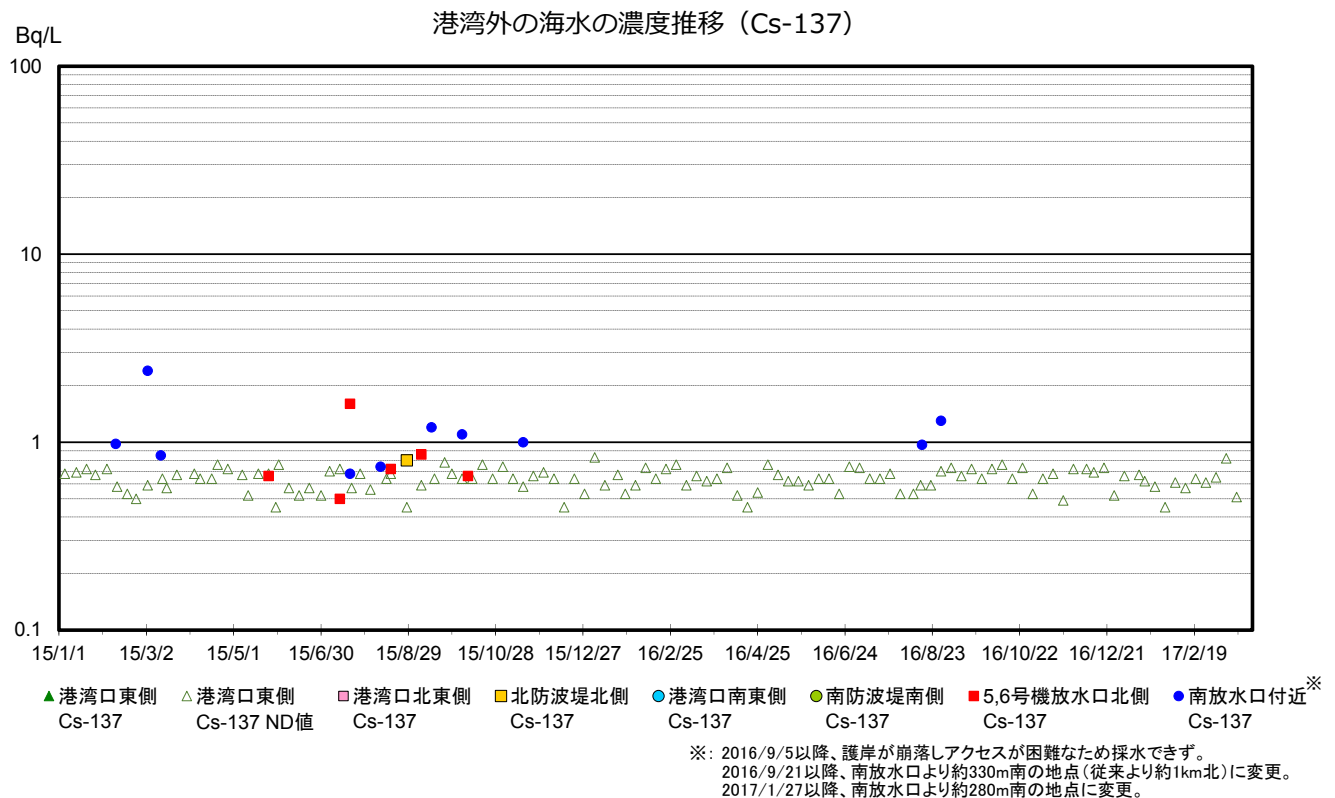
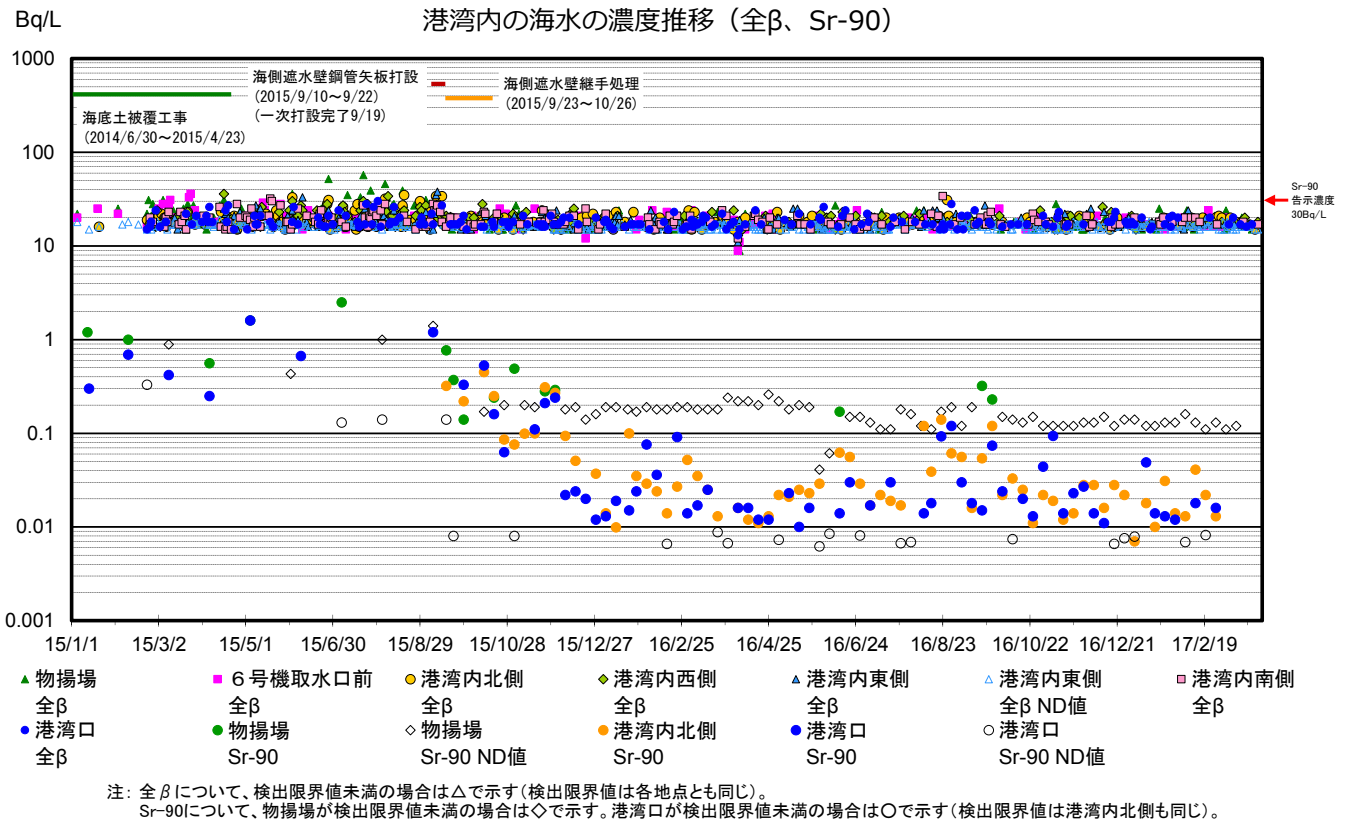
1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移 (1/3)

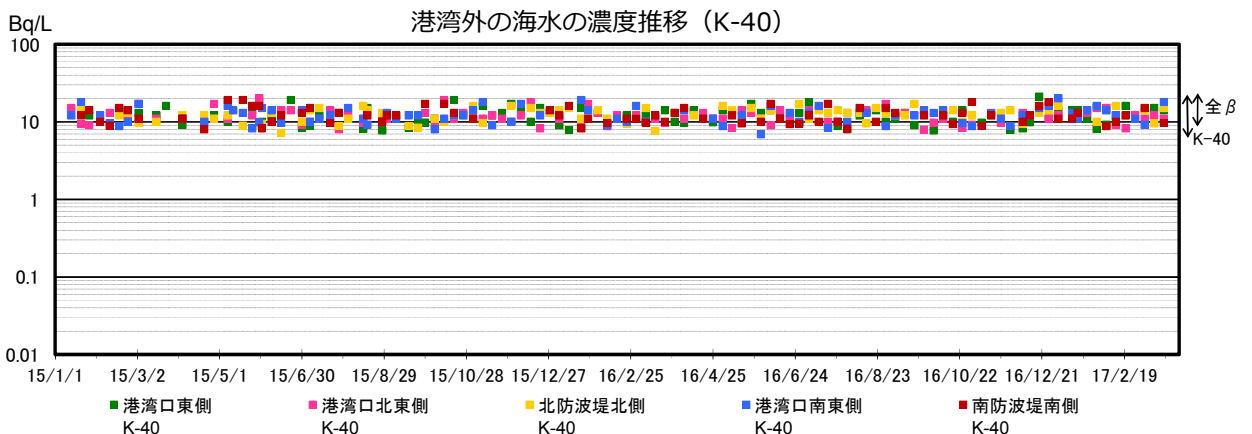
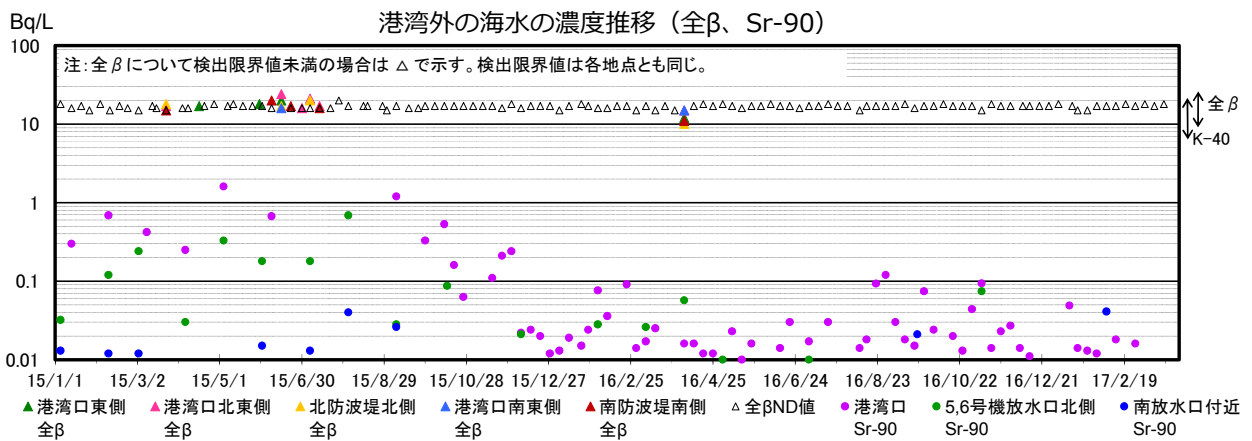
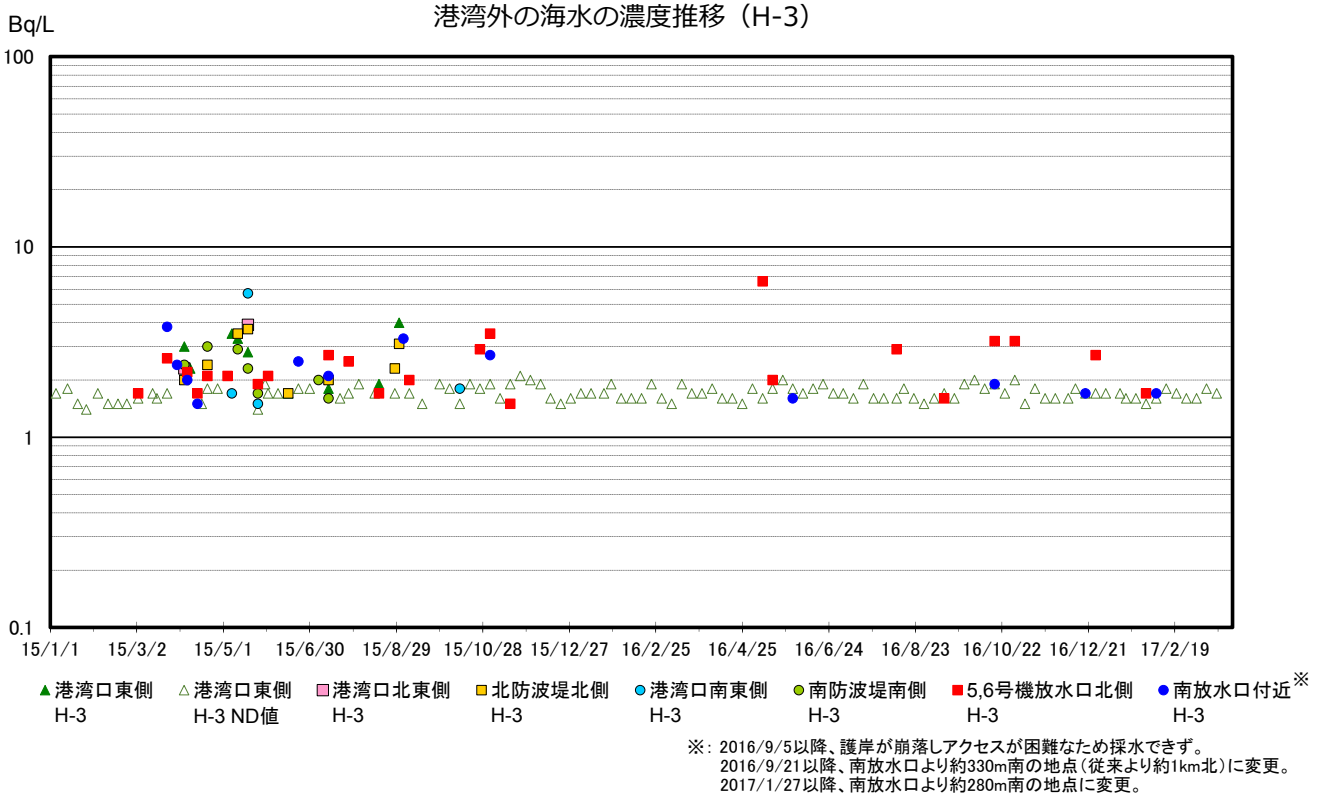




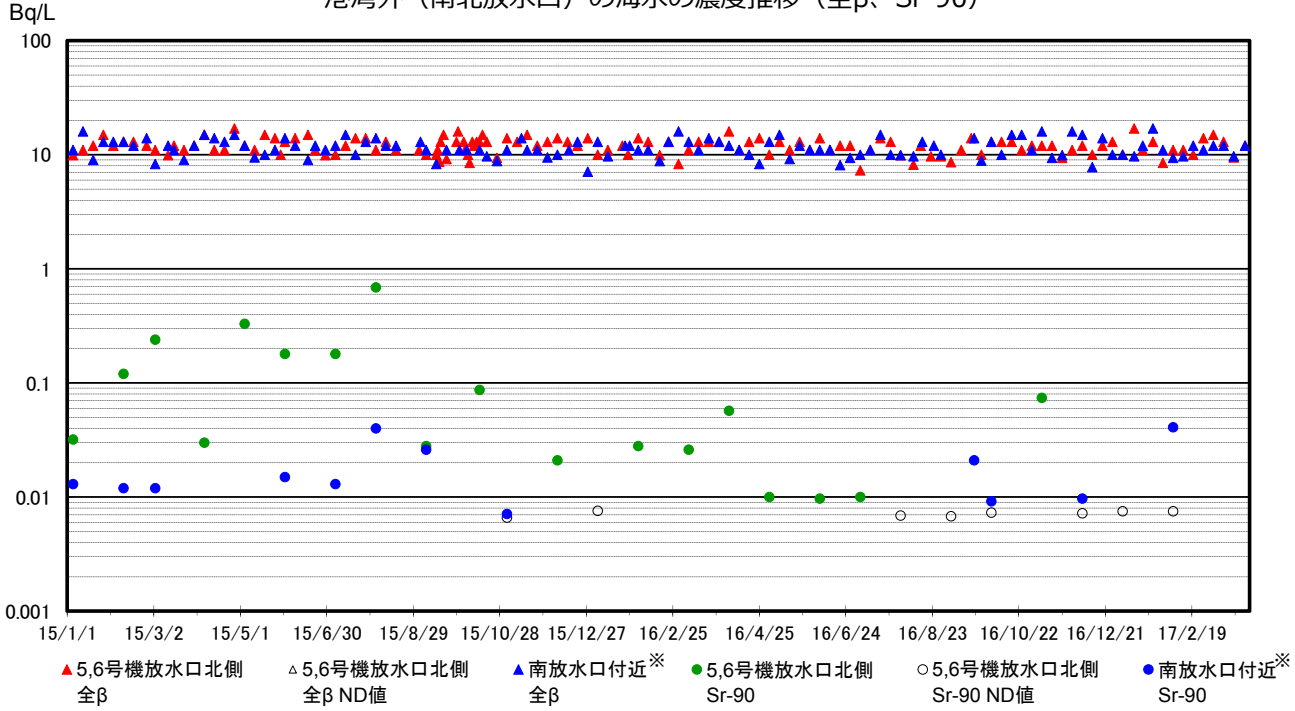








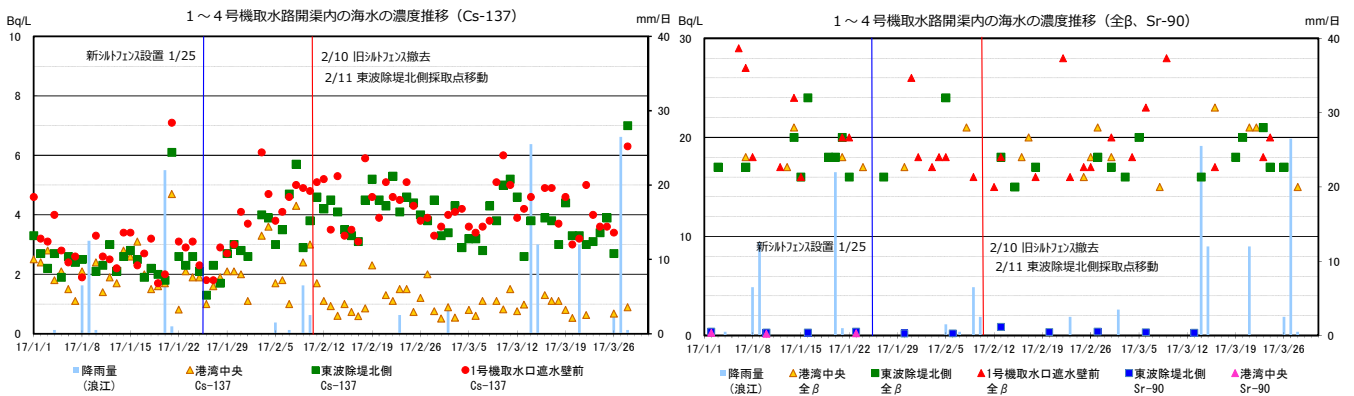
港湾外 (南北放水口) の海水の濃度推移 (全β、Sr-90)



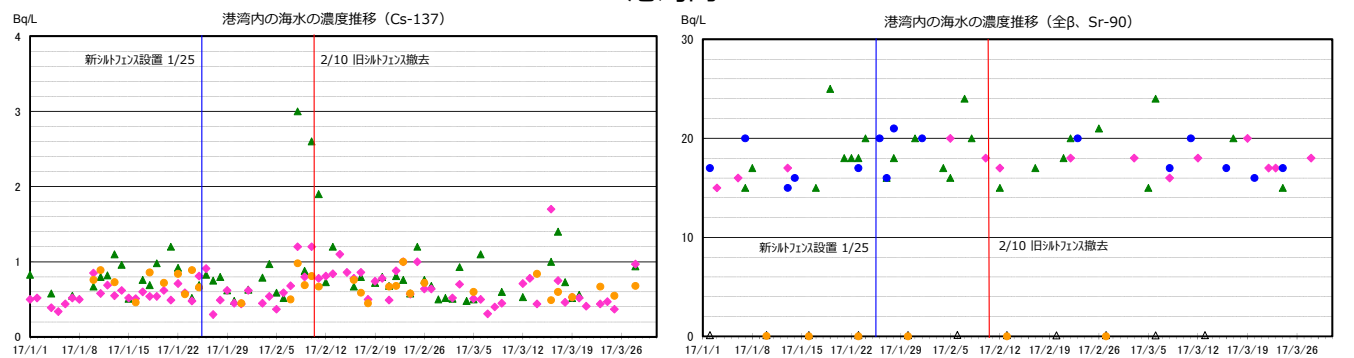
注: 2013/12/10以降、5,6号機放水口北側、南放水口付近について全βの検出限界値を見直し(20→5Bq/L)。※: 2016/9/5以降、護岸が崩落しアクセスが困難なため採水できず。全βについて検出限界値未満の場合は△で示す。検出限界値は各地点とも同じ。2016/9/21以降、南放水口より約330m南の地点(従来より約1km北)に変更。2017/1/27以降、南放水口より約280m南の地点に変更。Sr-90について検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

シルトフェンスの位置変更に伴う港湾内海水の濃度推移

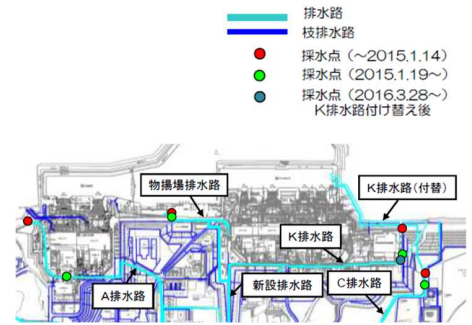
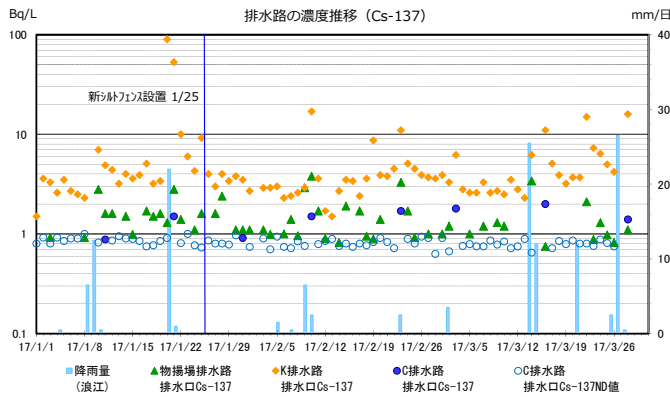
1~4号機取水路開渠内



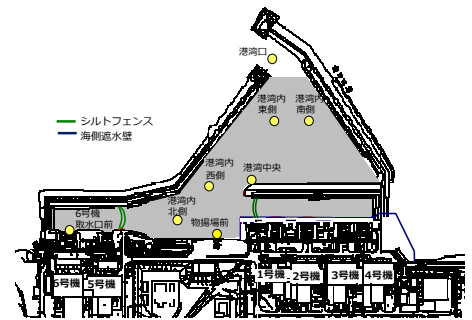
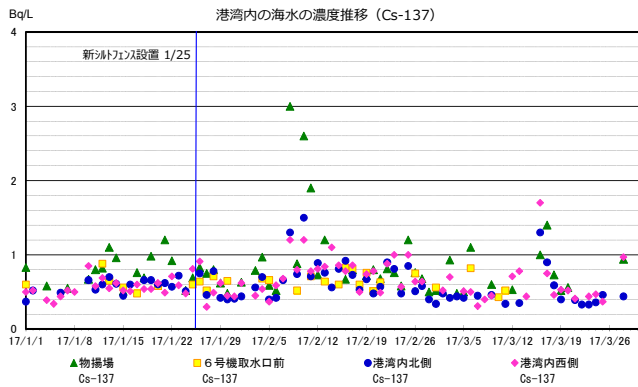
港湾内



排水路



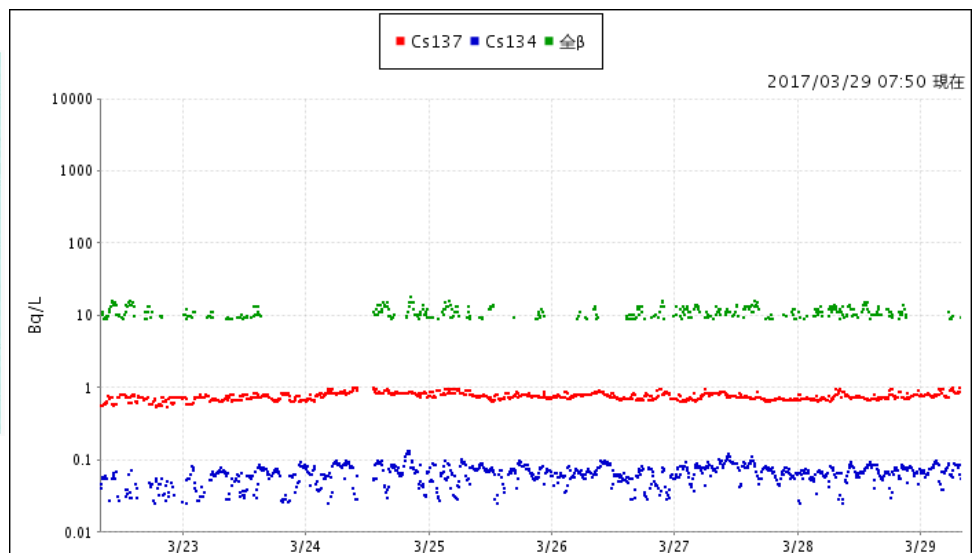
港湾内



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

<参考> 港湾口海水モニタの測定結果



※検出限界値未満 (ND) の場合は、グラフにデータが表示されません。  
(検出限界値)

- ・セシウム (Cs)134 : 0.02 Bq/L
- ・セシウム (Cs)137 : 0.05 Bq/L
- ・全β : 8.7 Bq/L

※海水放射線モニタは、荒天により海上が荒れた場合、巻き上がった海底砂の影響等により、データが変動する場合があります。

※参考 「福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則」に定める告示濃度限度は、以下の通り。

- ・セシウム (Cs)134 : 60 Bq/L
- ・セシウム (Cs)137 : 90 Bq/L

○ 設備の不具合および清掃・点検保守作業等により、データが欠測する場合があります。

○ 2017年3月23日午後5時頃より、設備の不具合により全ベータのデータが欠測しておりましたが、3月24日午後1時頃に復旧しております。なお、他の海水測定結果等に異常はありません。

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社